

昭和 35 年度下半期農業観測

(畜産市場見通し)

農林省は9月30日、昭和35年度下半期農業観測を発表したが、市場見通しのうち畜産関係分は次のとおりである

35年度下期の畜産物市場の見通し

ア、鶏卵 下期の生産は、前年同期よりかなり増加するみこみであるが、需要はひきつづき強いので、農村価格は高かった前年同期の198円(1kg当り)程度が、やや安いものとみられる。

イ、肉豚 下半期の肉豚の出回りは、12月までは前年と同程度かやや少ないが、36年1月～3月には35年同期水準をやや上回るものとみこまれる。下期の農村価格は8月の235円(生体1kg当り)よりやや値下りするが、前年同期(190円)よりかなり高いであろう。

ウ、肉牛 下半期の肉牛の出回りは、前年同期程度かわずかに減少するみこみであるが、需要はひきつづき増えるものと見通される。下期の農村価格は、上期の価格171円(生体1kg当り)よりやや値上りし、前年同期の157円よりかなり高いであろう。

エ、牛乳 下期の牛乳の生産は、前年同期よりかなり増加するみこみであるが需要は順調に増加するであろう。下期の農村価格はほぼ上期の価格(10kg当り飲用乳260円、加工原料乳233円)程度で推移するであろう。

35年度下期の農業資材市場の見通し

ア、飼料 下期の農村価格は、配合飼料は8月の価格(37.5kg当り成鶏用1,352円、乳牛用1,094円)程度で前年同期よりわずかに安く、米ぬか、大豆油かすは8月の1,575円(37.5kg当り)よりやや値下りし、前年同期よりやや安いみこみであるが、ふすまは8月の価格734円(30kg当り)より季節的に強含みに、麦ぬかはわずかに値上りするみこみであるが、前年同期にくらべると、ふすまはわずかに高く、麦ぬかは同程度とみられる。とうもろこしは8月の価格1,101円(57.5kg当り)程度で推移するみこみである。

イ、子畜 下期の子牛の農村価格のうち乳牛(ホルスタイン種、生後4～6カ月牝)は8月より強含みに、和牛(生後4～6カ月牝)はやや高いであろうが、子豚(生後40～60日牝)は8月価格(牝5,500円)程度か、やや強含みであろう。